

自己点検・自己評価報告書

令和7年3月31日現在



専門
学校

静岡工科自動車大学校

目 次

・1.学校の教育目標	1
・2.本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2
・3.評価項目の達成及び取組状況	3
(1). 教育理念・目標	3
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	
・学校における職業教育の特色は何か	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
(2). 学校運営	4
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
(3). 教育活動	6
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
(4). 学修成果	9
・就職率の向上が図られているか	
・資格取得率の向上が図られているか	
・退学率の低減が図られているか	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

(5). 学生支援	10
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
・学生相談に関する体制は整備されているか	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	
・学生の生活環境への支援は行われているか	
・父母等と適切に連携しているか	
・卒業生への支援体制はあるか	
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
(6). 教育環境	12
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	
・防災に対する体制は整備されているか	
(7). 学生の受入れ募集	13
・学生募集活動は、適正に行われているか	
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
・学納金は妥当なものとなっているか	
(8). 財務	14
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
・財務について会計監査が適正に行われているか	
・財務情報公開の体制整備はできているか	
(9). 法令等の遵守	15
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
・自己評価結果を公開しているか	
(10). 社会貢献・地域貢献	16
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	
(11). 国際交流	17
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
・4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18

1. 学校の教育目標

学校法人 静岡自動車学園 経営方針

技術者の育成をもって地域社会に貢献する

専門学校静岡工科自動車大学校

1 教育理念

社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成

2 事業ビジョン

- (1)学生や父母等が「成長」を感じるとともに、「感動」を与え、すべての関係者(業界、企業、高校、地域)から喜ばれるような、質の高い教育サービスを提供する。
- (2)様々な手法により学校教育活動及びその教育成果を地域社会へ周知し、学校の認知度を高めるとともに、安定した募集活動を展開する。
- (3)経費、労務管理等においては、健全で効率的な学校経営を行う。
- (4)将来の発展に向け、グローバルな視野と柔軟な発想により様々な可能性を模索し、時代の要請に合った新しい教育サービスを提供する。

3 事業目標

(1)教育の質の向上

- ・専門知識、技術及び社会人教育においては、「何を教えた」のではなく、「何ができる(わかる)ようになる」を実践し、創意工夫による質の高い教育を展開する。
- ・産学連携を推進し業界ニーズに合った教育環境(教育カリキュラム、教材、機器、施設設備)を構築する。
- ・研修及び授業研究などのFD推進により、教職員のスキル(知識、技術、指導力)向上に努める。
- ・資格取得率及び就職率の他、様々な教育活動において高い教育成果を達成する。

(2)戦略的な募集活動の推進

- ・PDCAのマネジメントサイクルにより常に募集活動を見直し、入学定員を確保する。
- ・企業奨学制度や高専一貫教育など、生徒や父母等、高校、企業が共に喜ぶ活動を推進し、安定した募集活動を展開する。
- ・学校教育活動を広く周知し認知度の向上を図るとともに、「選ばれる学校ブランド」を確立する。

(3)学校経営の健全化を推進

- ・PDCAのマネジメントサイクルの確実な実行により「ムリ、ムラ、ムダ」を取り除いた効率的かつ生産的な学校経営を行う。
- ・複数校運営を見据えた人材育成(教員、幹部職員)を推進するとともに、優秀な人材を確保する。
- ・学校業務を体系的に整理し、システム化、マニュアル化を推進することにより、業務の効率化を図る。

(4)新しい教育サービスの企画・立案

- ・「いつでも」、「どこでも」、「誰にでも」 提供することができる新たな教育サービスの企画・開発を行う。
- ・生涯教育やリカレント教育など、現在の経営資源を活用した講座の開設について検討する。

数値目標:完成年度 在籍数 540名 (入学者数 180名)

特定資産繰入額 1億5000万円(3年)

基本金組入前当年度収支差額 1億円

2. 本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 運営目標

(1) 入学募集定員の充足

① 新入生定員充足 静岡工科 180 名

自動車システム工学科 60 名、自動車整備科 60 名、国際オートメカニック科 60 名

※オープンキャンパス、個別相談会参加者数(留学生を除く)前年比+5%

※オープンキャンパスの企画変更と改善

※各種イベント集客方法の変更と改善

② 内部進学学生 25 名(静岡十浜松)

自動車システム工学科(1級)5 名、ボディエンジニア専攻科 20 名

※整備科(2 年)+ボディ(1 年)→在籍 3 年の企業奨学生の獲得の強化

2. 重点実施事項

(1) 教育成果の向上(学校評価向上)

① 資格取得率の目標達成

自動車システム工学科 4 年 … 一級小型自動車整備士 100%

自動車整備科、自動車システム工学科 2 年、国際オートメカニック科 3 年 … 二級自動車整備士 100%

ボディエンジニア専攻科 … 自動車車体整備士 100%

自動車システム工学科(開発コース) … 3 次元 CAD 利用技術者 準 1 級 100%

その他の資格は前年度以上の合格率、取得率を目指す

※科目担当者による実力の底上げ、授業の効率化、モチベーションの維持、向上

② 退学者の減少(5%以内)

③ 就職斡旋希望者全員内定(内定率 100%)

(2) 業務効率の改善と業務の平準化

① 業務の効率化による時間外勤務の削減(数値は各自設定)

※各種試験対策計画の変更による効率化

※補講方法の見直しと変更による効率化

※分掌業務の見直しと効率化

② 担任制を廃止し(国際科を除く)チーム制に変更することによる業務の平準化と責任の分散

※学年主任によるメンバーへの業務の分配と平準化

(3) 学生の自立を促す教育への改善と変更

① クラブ顧問主導から学生主導のサークル活動への変更

② 学生自治会活動内容の見直しと変更

(4) 学校認知度の向上(学校の特徴づくり)

① レース活動の積極参加とレース関係企画立案と提案

② 魅力ある教育活動の発信(募集に繋がる広報活動の推進)

※Instagram と TikTok の積極的活用と管理

③ 中学生、高校生の職場体験実習の推進

④ 県自入校案内の実施と促進 入校生数 150 人(在校生、新入生)

※資料請求や合格通知発送時の県自入校促進企画提案の実施

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。	4	特になし。
・学校における職業教育の特色は何か	現場のニーズを的確に捉えるために10社の企業と契約し、現役整備士による実習授業を展開した。資格取得に向けた学習は本校教員が担当し、主要実習は現役整備士という分担が成功した。	4	特になし。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期構想として第10次中期経営計画(2022~2024年度)を策定し計画を推進した。	4	特になし。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	3つのポリシー(DP, CP, AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をホームページ上で公開している。	4	特になし。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	4	特になし。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校の理念・目的・目標については、創立時の精神を受け継ぎ、時代や業界ニーズに合った人材育成をするための将来構想である第10次中期経営計画を立案し、学校運営を行った。
特に令和6年度からは教育現場と現場ニーズとのズレ、教場と整備現場での安全作業に関する意識の差を無くすために「現役整備士による実習授業」を導入した。その教育を受ける学生は勿論、職員にも整備現場のニーズを見直す最高の機会となった。

② 特記事項

参考資料No. (1 令和5年度静岡工科自動車大学校組織図、2 令和6年度 目標と方針、4 第10次中期経営計画書、6 学生便覧、57 情報公開資料(学校情報)、(学校ホームページ)

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	古澤 浩一
--------	----------	-------	-------

(2). 学校運営

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。また、取り組み状況や環境に応じ柔軟に修正している。	4	自動車業界の環境が大きく変化しており、その影響が学校運営にも及んでいる。経営環境の変化に柔軟に対応できるよう情報収集、問題の共有化を推進したい。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。事業計画は令和6年度についても計画どおり執行した。	4	特になし
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。	4	特になし。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。また、労務管理について再確認し、より良い職場環境になるように見直しを行っている。	3	人事評価システムの改定は概ね良い方向に機能している。 「働き方」の意識改革が必要になるため様々な取り組みを行っている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	4	常に話し合い意思統一を行っている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	4	特になし。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。	4	特になし
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。また Google Workspace を活用した教育システムが機能しつつある。	4	情報システムのトラブルに対応できる職員が少ないため、対応できる職員の育成を行っていく。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校運営に関する人事、教務に関する規程等、組織の整備は整っており、毎年運営方針を定め、職員に周知徹底を図っている。意思決定機能は組織図上明確となっており、幹部職員間、全教職員間のコミュニケーション量も増え良好な状態である。

コンプライアンスにおいては職員個々の認識に差があるが、当校の教職員として相応しい人格の形成を図りたい。

② 特記事項

- ・第10次中期経営計画(2022～2024)を策定し運用。
- ・人事評価システムによる評価の公開を実施。
- ・新規事業としてスタートした1級整備士試験過去問題解説動画は応募者が少ないので営業方法、金額設定を修正して大型の契約を目指すことにした。
- ・職員の職場環境の改善を行っている。教職員の満足度を上げることで職員が持つ本来の力を発揮させたい。

参考資料No. (1 令和6年度静岡工科自動車大学校組織図、2 令和6年度 目標と方針、3 各課の目標と方針(教務・入試進路・総務)、4 第10次中期経営計画書、5 令和6年度事業計画案、7 チャレンジシート・考課表、9 学務システム管理要領、16 会議一覧、57 情報公開資料(学校情報)、59CD(規程集、個人情報保護規程、情報公開に関する内規、議事録))

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	古澤 浩一
--------	----------	-------	-------

(3). 教育活動

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に問題はないと感じている。今年度は新たな科・学年主任が就任し、今までとは異なる新たな視点からの先進的な意見・提案が発信されている。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教育到達レベルと学習時間をシラバスに明記し HP 上でも公開している。現在の学習時間は国土交通省が定める基準並みとしてあるため、限られた時間の中で最大限の効果が得られるよう活動を行っている。	3	令和7年度より、自動車整備士養成課程が改定される。次年度より新教育課程の運用を開始するが、時間数の削減による影響を慎重に考察していく必要がある。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が定める指定基準に沿って、学期末ごとに全職員で見直しを行い、業界との格差が発生しないようにしている。	3	令和3年度に変更した国際オートメカニック科、及び、システム工学科3～4年次のカリキュラムが完結しつつある。教材、教場、教員など、割り当てを改善しながら完成に向かっている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	JAMCA より、コンプライアンス教育を目的としたテキストが公開された。次年度よりこのテキストを道標とし、コンプライアンス教育に力を入れることが求められる。シラバス見直しにおいて、必要な教育を盛り込んでいる。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えてカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、新たな自動車整備士養成課程実施に向けたシラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善している。カリキュラム編成委員会からのご意見を取り入れ、整備作業アンケートの見直しを継続している。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。また、企業と連携し一部の実習授業を自動車ディーラーの現役エンジニアに担当していただく仕組みを取り入れた。次年度は、さらに拡大する予定となっている。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に問題はないと感じている。人手不足の中、長期間に渡り講師を派遣していただいている企業から、業界を継続・発展させたいという思いを共有することができている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果の目標を 76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。A 評価1・2学期平均で 82..15% (R5 年度は 80.65%)と昨年度より 1.5 ポイント上昇した。引き続き高い評価を得ており、担当学年が変わっても安定した授業運営ができていると考えられる。今後も学生に支持されるような教育活動を継続したい。

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	3	基準は学生便覧(教務規定掲載)に明記されており問題ないと感じているが、その運用において経験年数が少ない職員は理解が進んでいない印象がある。定着するまで時間が必要と感じられる。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。また、自動車運転免許取得の必要性を改めて捉えなおしている。	4	自動車運転免許に係る資格取得を改めて見直し、より必要性の高い種目、また、取得の方法を学園全体で見直している。専門学校部門と教習部門が協力しながら効果的な運用方法を模索し検討している。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。	3	一級自動車整備士を取得している職員の割合は高水準であるが、専門学校の教員としてのキャリアが短い職員が増えている。将来に渡り高いレベルの教育を安定して提供するためには、定着率を高めるような対応策が必要だと考えられる。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	自動車整備業界からだけではなく、自動車整備機器取扱業界からの職員を採用することができた。また、外国籍社員の採用により、グローバルで実践的な教育を提供できる組織となり、国際オートメカニック科は大きく飛躍することができた。	4	令和6年度より、一部の実習科目の担当を自動車ディーラーの講師に依頼し、現役のエンジニアから直接指導を受けられる環境を整えた。また、外国籍社員は、自身の留学生としての経験を学生に伝えているなど、これまでにない優れた教員を確保することができた。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	自動車整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	6月に最新の技術についての研修を受講した。研修で得た知識や技術を授業内で学生に伝えていた。ASV 車両やエーミング作業のツールも充実しており、ASV 車の整備にも対応できる環境を整えている。外部診断機の不足は、補助金制度を活用し状況の改善を図ることができた。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。また、世の中の動向に注視し、必要な資格を全員が取得するよう働きかけている。	4	令和6年度初め、全職員がテールゲートリフターの安全教育を受講し資格を取得した。また、各科・学年の必要性の応じ、適宜外部研修に参加している。研修発表の機会を通じ、全職員で情報を共有している。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

コロナ禍が収まり従前の教育活動の環境へ戻りつつあり、学生からの授業評価も上昇傾向にある。ただし、入学生の基礎学力低下が顕著であることは変わらず、業界ニーズレベルまで到達させることが喫緊の課題となっている。また、自動車整備士養成課程の改定を目前に控え、来るべき自動運転の時代にも対応できるようハード・ソフトの両面から教育環境を整えつつある。概ね良い自己評価であるが、教育活動は学校運営の柱であり、学校評価に繋がる最も重要なことと位置づけていたため、今後も現状に留まらず教育活動の充実を継続していくことが大切であると考える。

② 特記事項

令和6年度 社会人基礎力評価表を全学生に配布し実施。

令和6年度 整備作業アンケートを全学生に配布し実施。

令和6年度 カリキュラム編成委員会編成。年2回の委員会を開催。

企業から社員派遣1名（2024.4～2025.3）

企業の講師による実習授業9科目

参考資料No. (2 令和 6 年度 目標と方針、3 各課の目標と方針(教務、入試・進路、総務)、4 中期経営計画書、6 学生便覧、8 教職員の増減、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、12 学則変更推移、14 授業研究報告書、15 授業アンケート結果 1期、2期分、18 研修計画・実績、22 インターンシップ実績報告、45 専修学校設置基準、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(規程集))

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	渥 美 智 弘
--------	----------	-------	---------

(4). 学修成果

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象にキャリアマップを利用し就職斡旋を行っている。各企業のガイダンスは例年通り実施しており、面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。	4	一部の企業に応募が偏る傾向が見られる。採用担当者の人柄やガイダンスの内容といった一時的な要素に左右されることが大きいと感じる。学校としては客観的な企業の情報を発信することで、多数の企業に興味を持ってもらえるよう指導している。
・資格取得率の向上が図られているか	全面的に対面での資格対策を実施できた。本年度は例年と比べ合格率を高めることができた。コロナ禍ではリモート中心に資格試験対策を実施していたが一部対策では利用を継続した。	3	学生の資質を見極めながら、成果の上がる学習方法を常に検討し、合格率の向上を目指す。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めた。また、進路相談や普段の生活面での相談ができるよう外部カウンセリングを行う窓口を設置している。	3	利用状況件数が少ないため、カウンセラーの先生に予約がない時間帯は、ランダムに授業状況を見学していただき学生に対する指導において改善策等を提案していただく。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。	3	今年度は企業実習時間を増やすことで企業との交流の機会が増え、入手できる情報が増加した。本年度は各企業内で技術大会なども行われ卒業生の活躍を見学することができた。ガイダンスの機会に採用担当者へ確認すると、留学生の活躍についての話が増えてきた。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	企業の採用担当者や企業実習の担当者等に対して、学生時代に学ばせたい事を聞いてみると、知識や技術の習得以外に、人と人とのコミュニケーションを選択する方が多い。一方、本校の卒業生はコミュニケーションについては概ね良い返答をいたしている。	3	学生に対しては、自動車整備業や自動車製造業はすべてお客様あっての業種であることを理解してもらい、適正なお客様対応ができる接客授業を行い育成していく。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

自動車整備業界は自動車生産が需要に追いついていないため新車販売が低迷している。そのため、既存車両の整備台数が増えており自動車整備士の売り手市場が続き採用内定を得やすい状況が続いているが、この環境に油断せず今後も継続して成果を出していく。退学率については、修学意識や学力の低い一部の学生が問題となった。そうした学生が増えているという現実を承知し、外部カウンセリングをとおし早期指導を心掛けていく。資格取得率は効率的な資格試験対策授業のやり方を毎年研究してより高い実績を求めたい。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (9 学務システム管理要領、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、20 退学者推移、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録)

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	浅田 研二
--------	----------	-------	-------

(5). 学生支援

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。また、電子求人システムを企業担当者、学生双方が活用することにより効率的な支援体制となっている。	4	企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差があるが、問い合わせに対し柔軟に対応できている。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談(ハラスメント等を含む)は、学年担当職員が対応し、それを主任がカバーする。また、女性教員や保健室、奨学金・保険担当室や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	4	学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応している。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	高等教育修学支援制度による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を感じていると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	怪我等に関しては常勤看護師による対応がなされている。また、メンタルケアについては専門のカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる状態にある。	3	看護師が勤務していない時間においての対応に課題があるが、総務課と担任(担当)が対応し看護師の不在時間をカバーしている。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生主体のサークル活動に移行することにより学生が主体的に活動を行っている。また、学校による支援体制も充実している。	3	サークル支援に対する職員の関わり合いについて、担当者や時間、待遇など検討を要る
・学生の生活環境への支援は行われているか	1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。(留学生を除く)	4	1人暮らしの補助、通学費支援により募集活動に効果を発揮している。本年度募集から在学中の支援となる交通費支援ではなく、父母等が期待する入学前の支援となる入学金減免(半額)に変更した。
・父母等と適切に連携しているか	例年、後援会総会後に担任と父母等との個別面談を実施している。また、電話連絡等により父母等に学生状況の報告を行い、相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。

・卒業生への支援体制はあるか	卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	4	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していくだけ企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	業界関係者が気軽に企業ニーズを発することができる体制(HP等)を入試・進路課を中心に整えたい。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。	4	各種の講義、講話の内容を継続的に改善し、さらに効果と魅力がある内容にしたい。 変更なし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

高等教育修学支援制度、日本学生支援機構等の奨学金制度、特待生授業料減免、下宿支援金、通学費サポート、企業奨学・推薦制度等により、学生の経済的側面に対する支援が確実に整備され、有効に機能している。また、学生の様々な悩みを早期の段階で察知し、励ましや助言、指導を行う教職員個々の指導力(カウンセリング技術など)は現状でも十分に機能しているが、全学生とその父母等が満足できるレベルに向上させる努力が必要である。卒業生に対する支援については、HPを入口に数人ではあるが、毎年再就職に結びついている。就職支援体制については、学生に多くの情報をリアルタイムに公開するための電子求人システムへの完全移行が完了した。

② 特記事項

特になし

参考資料No. (1 静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、21 指導要録(副)、24 令和6年度 行事予定表、25 入学に関する諸連絡、26 学校医委嘱受諾書、27 クラブ活動実績、28 合格者の手引き、29 入寮案内、学生さんのための下宿・アパート情報、30 父母等参観会実施要領、父母等相談会実施要領、31 同窓会会則、32 再就職斡旋リスト、38 学生募集要項、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程)

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	瀧眞吾
--------	----------	-------	-----

(6). 教育環境

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入している。今年度はジーゼル・ベンチエンジン、フロン・ガス充填・回収機、外部診断器等を設置した。	3	施設・設備の規模や整備内容は充実しているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかかっている。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	教育課程表に定められたインターンシップは実施した。海外研修については、今年度実施していない。	3	企業内定者については、全員が企業インターンシップに参加できるよう計画したい。
・防災に対する体制は整備されているか	令和6年に災害対策対応マニュアルを改訂した。緊急時の教職員及び学生への連絡、安否確認体制についてグーグルを利用し確立した。安否確認等訓練を複数回実施、習熟度を高めた。	4	学生の安否確認に使用しているグーグルフォームの取り扱いについて、一部の職員に不慣れな場合が見られ、習熟が必要である。スマートフォンで対応できる簡易的な災害用アプリの利用を再検討したい

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

教育環境に関しては、教育機関としての長い歴史の蓄積で十分な規模と内容が整っている一方で、IT、デジタル、AIといった今後発展するものに対してはやや追い付いていない面があり、今後の課題と言える。

② 特記事項

③年毎の中期経営計画に従い、計画的に教育環境を整備している。

参考資料No. (4 中期経営計画書、22 インターンシップ実績報告、23 令和6年度 学外実習等、33 消防計画、36 避難訓練実施要領、防災訓練実施要領、54 企業と連携した実習実績、59CD(教室及び実習場状況一覧、教材・機器一覧))

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	浅田 研二
--------	----------	-------	-------

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	EVシフトされる業界の現状を伝え、今後必要となる一級整備士の必要性を伝えるとともに、企業奨学制度、企業の現役メンバによる実習授業や資格取得成果の3つの特徴を柱に活動を実施した。また、通年において小学生や中学生への自動車整備の啓発活動も継続している。	4	県内や浜松工科のエリアに囚われない広報活動が必須となる。学校の強み、特徴を様々な広報ツールで訴求し、希望者への接触からリーチまで段階毎の丁寧な対応を心掛ける。また、メディアによる自動車整備士のイメージ向上の為の啓発活動など、様々な活動を戦略的に展開したい。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	4	配布紙媒体やSNS(Instagram)、ホームページの「活動紹介」を活用し教育活動を分かりやすく伝え、本校の各種情報も継続的に発信したい。
・学納金は妥当なものとなっているか	物価上昇に伴い、令和8年入学生より授業料を改定することになっている。	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定済み。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

2024年度(2025年入学募集)に関しては、東部地区の就職好調の煽りを受け、2年生までは当校を希望されていた学生が、その後就職や大学に進路変更する状況が多く見受けられ、募集が苦戦する可能性もあったが、整備科の補填を留学生(二年制整備科)に充当しながら、システム工学科と整備科の合計定員を上回る達成となった。日本語学校と連携し、優秀な学生を慎重に受け入れ、企業奨学制度を組みながら、安心できる進学手段を提案した。

また、システム工学科と整備科の募集活動については、反応者一人ひとりの進捗状況(反応回数やイベント、参加数)を把握しながら、分析を得て次のステップに導けるようなアプローチを実施、例として高校の進学担当教員にご本人宛ての手紙をお渡しするなど、学生本人と進路担当教員に対して、熱意を伝える営業活動を実施できた。その中でも、オープンキャンパスでは、参加者一人ひとりへのアプローチを戦略的に実施するため、カルテを採用し、職員全員が参加者の体験状況、企業奨学金状況などを把握できる体制を整えた。複数回参加のリピーターに関しては、見学、学校説明等を省き、必要としている個別相談を実施するなど、効率的な展開が決定率アップにつながったと感じています。

車のEV化や自動化で、今後、求められる一級自動車整備士の育成を基軸とした教育活動に加え、基礎基本を身につけた二級自動車整備士の輩出が本校の役割と考えている。自動車に興味を持ち、カーエンジニアを目指すことのできる生徒だけに出願させる受け身の募集活動では今後の定員確保できない。今年度から拡大している小学生の車の興味を喚起させる取り組み(職業体験施設もあるイベントなど)を基盤に、従来の中学生職場体験、高校生に対する自動車整備士の魅力を伝える活動を積極的に行い、将来自動車整備士を目指す若者が増えるよう引き続き活動を行っていきたい。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (37 学校パンフレット、38 学生募集要項、39 2025 年度入試応募者数一覧、40 入学選考推移、41 学納金推移一覧表、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、59CD(学校ホームページ、シラバス))

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	橋本 佳樹
--------	----------	-------	-------

(8). 財務

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	近年施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが経費削減等に取り組み帰属収入の確保に努めている。	3	有形固定資産減価償却率も意識しながら投資の選択と集中を行う。中長期的には引き続き経費節減。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は経営目標を達成できるように立案し、管理部門のヒアリングを通じて適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	キャッシュフローを把握し、事業活動収支差額への影響を十分に吟味した上で、必要な事業には投資できるよう管理している。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年、理事者及び実務担当者へのヒアリングと財務諸表各項目について適正に監査が行われている。	4	適正に行われている。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	公開用財務諸表を金庫内に備付け、ステークホルダーに対する公開体制は整備できている。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

当年度は、過年度の入校生数減少の影響を受け在校生数が近年で最も少ないが、固定費の流動費化を実現させる経営努力により、最低限の財務数値は維持している。次年度は需要に応じた学科の定員数を増やす取組もあり、総体的に定員が充足することから、財務基盤が強化される見通しである。従前どおり無駄な経費は抑制しつつ、必要なところには積極的に投資を行い職業訓練環境の充実を以って、入学者数の増加、財務基盤の中長期的な安定、増強を目指す。

② 特記事項

特になし。

参考資料N o. (42 令和3年～令和5年度 主要財務数値、43 令達予算書、補正予算書、44 会計監査計画書、57 情報公開資料（学校情報）、59 C D（学校ホームページ、情報公開に関する内規）)

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	小池 京司
--------	----------	-------	-------

(9). 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。	4	特になし。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	3	内部監査における指摘事項。 就職活動での学生の個人情報取り扱いに関する指摘事項について、企業様との機密保持契約については再検討していく。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価は、毎年見直しを行い、年度末には所属長による改善指示をしており、学校関係者評価による検証も行っている。	4	特になし。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特になし。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

法令、専修学校設置基準等は、年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。
 個人情報保護の管理については、学生に対する職員室へ入室範囲制限の実施、職員回覧物の個人情報が見えないような工夫の実施、パソコンのLANへの接続制限や個人情報の学外持ち出しの制限など、みだりに個人情報が漏れ出ることを防いでいる。しかし、個人情報ではないが授業資料などのデータ管理の必要性を認識しアクセス権等に関しては引き続き検討していく。
 また、自己点検・評価を毎年実施しており、PDCA サイクルによる教育活動の改善が見られる。また学校関係者評価も継続して実施しており、教育成果にもその効果が表れており、良い方向に進んでいると評価する。

② 特記事項

- ・毎年、法人本部による業務内部監査及び監事による内部監査を実施。
 - ・自己点検評価の他、学校関係者評価を毎年1回(5月)に実施。令和元年度には JAMCA 第三者評価を受審。
 - ・学校情報は学校ホームページに掲載し、最新の情報を公開。
- 参考資料No. (57 情報公開資料(学校情報)、59CD(学校ホームページ、個人情報保護規程、情報公開に関する内規))

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	古澤 浩一
--------	----------	-------	-------

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験を受け入れ地域の中学校との連携を図っている。また、高校生エコラン大会では事務局として大会運営に携わり、会場の貸し出しも行い、静岡県工業校長会の連携を図っている。	4	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	歳末助け合い募金を実施することにより学生がボランティア活動に参加することができている。	4	コロナによる行動制限が解除され、状況に応じたボランティア活動ができる様を検討し実施したい。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	小学生に対するお仕事講座を実施。また、お仕事フェアなどへの参加により地域社会の若年層にたいする講座を積極的に実施した。	4	地域社会からの要望に応えながら実施する必要があるため、ニーズの確認を引き続き行う必要がある。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として積極的に行っている。また、中学生職場体験を行った。
- ・近隣の駅から本校までの通学路の清掃活動を奨励し学生もそれに自主的に参加した。今後も時代の要請に合った活動を継続していきたい。
- ・宮前地区(学校所在地)の清掃活動へも参加した。
- ・二級シャシ講座などは隔年実施のため、本年度は実施されなかった。

② 特記事項

中学生整備体験受入れ延べ11校86名

2010.9.7 エコアクション21認証取得 2024.7.10 更新審査実施(書類、現地調査) 更新日 2024.9.7

必要に応じ通学路の清掃活動に参加

参考資料No. (34EA21手順書(バッテリ、ガス溶接)、48 生涯学習資料、49 附帯教育事業資料、50 EA21活動実績、51 ボランティア活動資料

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	瀧 慎吾
--------	----------	-------	------

(11). 国際交流

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和6年度入学定員60人から令和7年度入学定員を80名に、令和7年2月理事会にて変更し、受け入れ拡大を実施する。	4	・学費や生活費をアルバイトで稼ぎ通学している留学生が多く、昨年度に引き続きアルバイトが激減したため授業料の支払いに苦労する学生が多く見られた。留学生も対象となる奨学生制度の開拓が必要である。 ・留学生の入国規制が緩和されたため、日本語学校に留学生が増加し始めている。また、留学生増加に伴い、下宿先やアルバイトの斡旋を学校として紹介する必要性を感じている。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として適正校認定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に留学生担当生活指導担当を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科の主任や教務課長が対応する。	4	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり28時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。 産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。一級自動車整備士動画を社会人対象に展開しており、受講生も増え始めている	3	一級試験合格率の向上が続いている。産能大は少数ではあるが順調に卒業者が出ており、また放送大学の在校生も増えた。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

令和4年度に留学生の入国規制が緩和され日本語学校への入学生数が増加したこのため、令和6年度入学生数は増加することが予想されるため、令和6年度入学定員を40人→60人に増員した。更に業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和7年度入学定員を80名に変更し、受け入れ拡大を実施した。留学生の科の運営を強化した結果、令和7年度入学応募状況は、留学生数が大幅に伸び学校全体の定員数を確保できる予定である。

② 特記事項

令和6年度 留学生在籍数141名(ミャンマー、ベトナム、インドネシア、中国、ネパール、スリランカ、韓国、バングラデシュ)
令和6年4月～国際オートメカニック科 定員増(40→60名)、令和7年4月～国際オートメカニック科 定員増(60→80名)に変更
在籍管理が適切に行われている【適正校（クラス1）】として選定 令和6年11月1日（名古屋出入力国管理局留学審査部門）
参考資料No. (1 静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、55 留学生在籍管理)

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和6年度は、現役整備士による実習授業を導入した。教員は現場から遠ざかり現在のニーズを正確に把握することが難しいため、学生に対し正確な「今の整備」を教えることができない。これを改善するために10社の企業様に協力を仰ぎ「現役整備士による実習授業」が完成した。それは、学校内に多くの現役整備士（企業人）が入ることで教場が整備現場に変化するような状況となった。正確なニーズに対応する教育を受けた学生が現場で活躍することを期待している。

学校生活に関しては学生の積極性や自主性を伸ばすために身だしなみのルールを廃止した。また、部活動は顧問を置かないサークル活動に移行し学生の自主運営とした。その結果、エコランサークルは鈴鹿大会を2連覇、軟式野球サークルは全国3位となった。ボディエンジニア専攻科の学生は「TOKYO AUTO SALON 2025」にカスタムカーを出展し、コンパクトカーデ部分で最優秀賞を獲得した。このように多くの対外成績が向上しているのも、学生の自主性が向上している結果であると推測している。

また主な教育成果である資格試験においては、目標とする合格率を概ね達成しており、教職員の努力の成果が数字となって表れている。次年度以降も教育内容に工夫や改善を加え、良い成果を上げることを期待する。

新規事業としてスタートした1級自動車整備士試験解説動画は販売を開始した。しかし、商品としての完成度は高いが1年間の契約者数は10件程度と低迷しているため、営業方法と金額設定を変更し大型契約を目指すこととした。

「静岡カーフェスティバル」は、多くの企業や業界団体からの支援により、約6500名が来場する、盛況なイベントとなった。令和6年度は学生自治会を動員し学生の活躍も表現できる体制とした。このイベントはクルマ業界や地域に貢献するとともに、将来の自動車エンジニアを確保するために必要な活動であるため、次年度以降も継続して実施したい。

募集活動では一つひとつの高校や日本語学校に対応した柔軟な営業活動により、令和6年度は入学総定員充足を達成した。今後は確実な学生獲得に向けた静岡工科にしかない新たな企画を展開したい。

就職活動については、労働人口減少に伴う人手不足により売り手市場の状況が続いているが、今まで以上に企業様の見る目が厳しくなっている。企業様が学生に求めている、積極性や主体性を高めるために学校ができる最善の教育を提供し、一人ひとりが希望する企業に就職させ活躍できるようにしたい。

最後に、これからも学生、父母等、高校や企業などの学校関係者が期待する以上の教育活動を行うため、日々研鑽努力し、教育の質向上に取り組んでいきたい。

最終更新日付	令和7年3月1日	記載責任者	古澤 浩一
--------	----------	-------	-------